

1. ガイドライン策定の経緯

- トラック運送業においては、ドライバー不足が大きな課題となっており、トラック運送事業者、発着荷主等の関係者が連携して、取引慣行上の課題も含めてサプライチェーン全体で解決を図っていくことが必要。
- 一方、個々の輸送品目ごとに抱える課題や特性に違いがあるところであり、輸送品目別に検討を行うことが効果的。
- このため、荷待ち件数が特に多い紙・パルプ分野について、課題の抽出を図るとともに、トラック運送事業者及び発着荷主が参画して長時間労働の改善を図るため懇談会を設置。懇談会の検討の成果としてガイドラインを策定。

2. ガイドラインの構成

【まえがき】

- ガイドライン策定の経緯とトラック運送事業の現状
 - 今後のトラック運送事業の見通し、
 - トラック運送事業を取り巻く制度面の変遷、
 - トラック運送事業の健全な発展に向けて

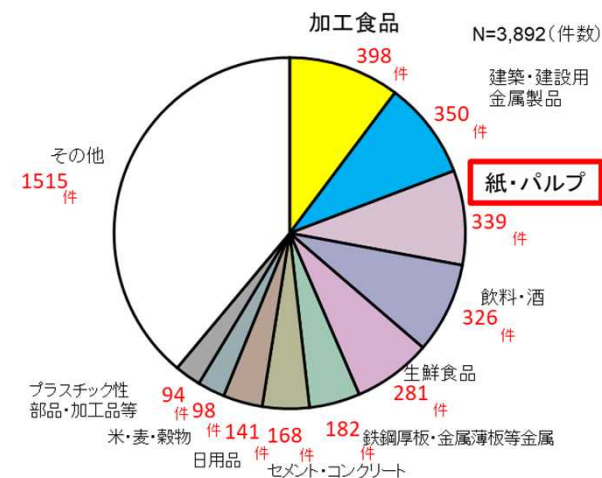
【本編】

- 紙・パルプ(家庭紙分野)物流における現状・課題、解決の方向性の整理
- 取引環境と長時間労働の改善に向けた具体的な取り組み事例等

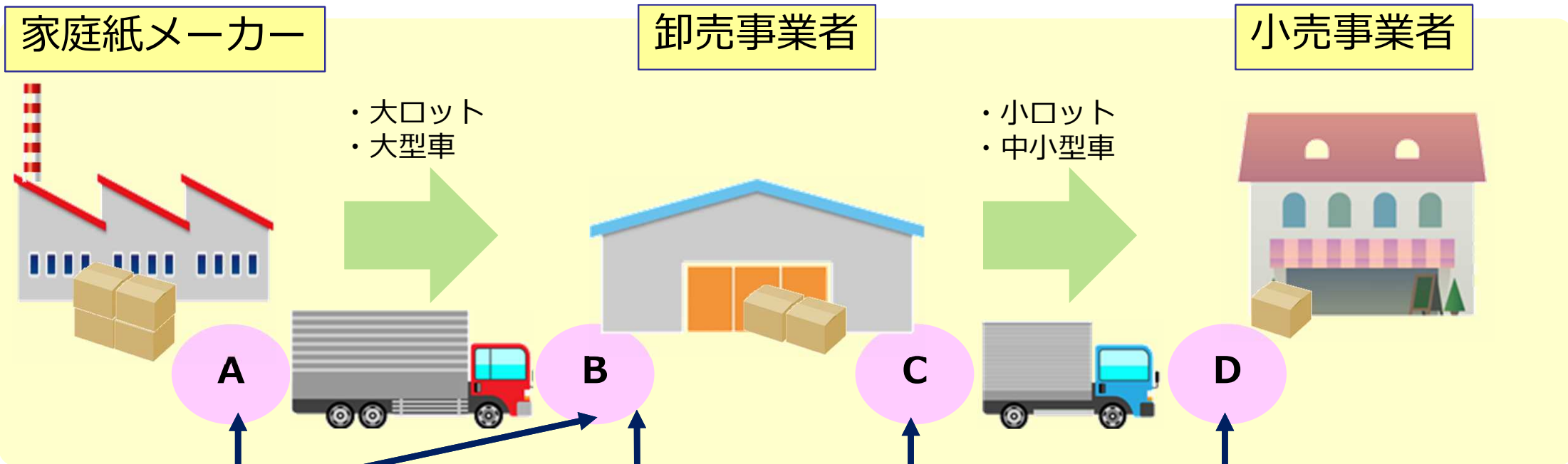
【あとがき】

- 紙・パルプ(家庭紙分野)物流における今後の取り組みの方向性
- おわりに(サプライチェーン関係者へのメッセージ)

30分以上の荷待ち時間が生じた件数(輸送品目別)



紙・パルプ(家庭紙分野)物流の課題の発生個所



発生個所 A 【家庭紙メーカー出荷時】
発生個所 B 【卸売事業者荷卸し時】

- 荷揚げ・荷卸し作業が非効率

⇒ **課題1** 【手積み手卸しの解消】

発生個所 B 【家庭紙メーカー荷卸し時】

- 車両集中による荷卸し待ち時間の発生

⇒ **課題2** 【荷待ち時間の削減】

発生個所 C 【卸業者出荷時】

- 少量多頻度納品

⇒ **課題3** 【少量多頻度納品の効率化】

発生個所 D 【小売事業者荷卸し時】

- 駐車禁止場所での納品

⇒ **課題4** 【納品環境の改善】

【家庭紙物流における課題の特徴】

- 家庭紙製品は単価が安いので、メーカーと卸売業者との間の幹線輸送においては、新たな設備投資コストを価格に転嫁しづらい中で、パレット化等の物流効率化に向けた取組みを進めていかなくてはならない状況にある。
- また、家庭紙製品は嵩張るため、規模の小さい小売店舗においては在庫を持つことができず、日々必要数量を配送する少量多頻度納品となっており、単価が安い(=運賃が安い)ことと相まって、運送事業者の経営を圧迫している。

主な対応策

◆ 課題1【手積み手卸しの解消】

- **手積み手卸しの解消のため、パレット化の取組を実施する。**
10トン・トラックの場合、積み卸し作業に2時間程度かかっており、ドライバーの長時間労働につながっている他、長時間バースを占拠することにより、他のトラックの荷待ち時間の長時間化にもつながっている。



◆ 課題2【荷待ち時間の削減】

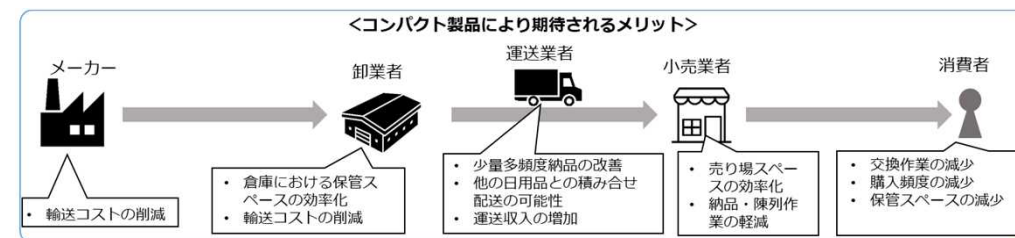
- **予約受付システム**の運用など、車両集中の分散化手法を実施する。
- 繁閑差を平準化する取組を進めるため、着荷主の発注見込み量を把握した上、発着荷主が納品計画を協議する。

◆ 課題3【少量多頻度納品の効率化】

- 物流の負荷を軽減させる**コンパクト製品**への切替を、サプライチェーン全体で実施する。

◆ 課題4【納品環境の改善】

- 小売店舗の駐車場の共同利用や商店街の共同集配送など、先進事例を参考に都市内物流の納品環境の改善を実施する。



今後の取組の方向性

- サプライチェーンにおける物流コストの適正な負担 ⇒ 持続可能な物流体制を構築していくため、関係者間で**適正な負担を協議**すべき
- パレット化の早急な促進 ⇒ 「**手積み・手卸しを解消する**」ということを共通認識として、更なる取組を促進
- コンパクト製品の普及促進 ⇒ 消費者へ製品メリットの積極的な周知を行い、サプライチェーン全体で検討を継続
- 小売店舗への配送方法の改善 ⇒ 都市内物流の効率化に向け、さらなる関係者が連携した取組を促進